

科目名	AMADEUS						
科目名(英)	AMADEUS						
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	平田 かおり		
実施年度	2019年	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	旅客サービス会社において 国際線旅客サービス業務担当		
対象学科・学年	エアポート科・2年						
授業概要	世界トップシェアを誇るAMADEUSシステムで航空券の予約について学び、検定においてSpecialist(初級)の合格を目指す。その中で、航空業界で使用する専門用語(2レター・3レターや機材名など)や航空業界の予約システムについての知識を深め、業界においてマルチに活躍できる人材となることを目標とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	目標						
	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○				航空会社2レターや都市・空港の3レターを見え、小テストにおいて満点を取ることができ		
	○				入力エントリを習得し、予約操作を一人で行うことができる。		
	○				入力エントリを問題によって使い分け、応用することができる。		
		○			スムーズなタイピングを習得し、60分以内で丁寧に問題を解くことができる。		
	○				Specialist(初級)に合格することができる。		
テキスト・教材 参考図書	テキスト:アマデウスユーザーガイド予約、クイックガイド(早見表)、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	アマデウス概要説明、シラバス配布、サインイン・サインアウト			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	2	情報検索①(各種コード検索、都市・空港・国コード)			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	3	情報検索②(各種コード検索、航空会社・機材コード)			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	4	情報検索まとめテスト			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。		
	5	タイムテーブル			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	6	ダイレクトアクセス、ヘボン式ローマ字			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	7	空席照会			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	8	PNR作成演習①(基本PNR作成、PNRの再表示、PNR中断)			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	9	PNR作成演習②(PNRの取り出し、乗継PNR)			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	10	PNR作成演習③(小児・幼児PNRの作成)			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	11	PNRのキャンセル・修正・変更			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	12	PNR作成まとめテスト①(基本編)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。		
	13	SSR・OSI入力(MEAL・FFP・SEAT)			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	14	予約の変更			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	15	PNR作成まとめテスト②(応用編)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。		
	16	情報検索振り返り			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	17	検定模擬試験①、採点、解説			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	18	検定模擬試験②、採点、解説			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	19	検定模擬試験③、採点、解説			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	20	検定模擬試験④、採点、解説			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	21	検定模擬試験⑤、採点、解説			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
	22	定期試験			授業の復習を必ず行い、次回授業に臨むこと。		
23	検定前対策			苦手な点は各自練習を行い検定に臨むこと。			
評価方法	(1)授業内で定期試験を実施する。(2)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○	◎	○		80%
	小テスト	◎	○		○		20%
履修上の注意	特に無し。						

科目名	GCB II						
科目名(英)	Global Citizen Basic II						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	浦川 実子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	エアポート科・2年						
授業概要	GCB I での考え踏まえ、さらに「社会とのつながりの中で自分自身の生きる姿勢」、すなわち“志”について考える。夢を実現するためには「行動する力」が必要となるが、そのためには具体的に言語化してビジョンにし、そのビジョンに強い信念が伴い、自分以外の人や社会・公のことが視野に入ると“志”に近づくという事を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		自ら考える、気づく。積極的に参加(話し合い、発表)する。日常生活で実践する。	
テキスト・教材 参考図書	・グローバルシティズンベーシックII 志の教育(学生用テキスト)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グローバルシティズンと“志”			振り返りレポートの作成		
	2	自分を取り巻く環境を知る ～世界の中の日本・日本の中の私～			振り返りレポートの作成		
	3	自己を知る			振り返りレポートの作成		
	4	伝える力を学ぶ I ～プレゼンテーション～			振り返りレポートの作成		
	5	伝える力を学ぶ II ～グループコミュニケーション～			振り返りレポートの作成		
	6	先人の志に学ぶ～プロフェッショナルとは～			振り返りレポートの作成		
	7	成功者の考え方に学ぶ～まとめにむけて～			振り返りレポートの作成		
	8	自らの志を言語化する(知行合一の考え方に基づく)			振り返りレポートの作成		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)レポートを8回実施する (2)最後の授業で発表する。 評価は合格「R」か不合格「D」のいずれかとなる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート作成・発表				◎		100%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、不合格となる。						

科目名	SPI II						
科目名(英)	Synthetic Personalitu Inventory II						
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	瀧口恵子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	エアポート科・2年						
授業概要	航空業界の就職採用試験で多くの航空会社で導入されているSPI試験の対策授業。非言語問題(数学)をメインに、SPI I で学習したことを基礎として、SPI II では更に応用力を身に付ける。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				各項目の解法を理解できる	
		○				制限時間内に解答することが出来る	
		○				模擬試験問題を7割以上の正答率で解答することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業概要説明(シラバス)					
	2	模擬試験問題:仕事算、速度算、確率、N進法、推論				テキスト該当部分の復習	
	3	模擬試験問題:N進法、集合、数列、確率				テキスト該当部分の復習	
	4	模擬試験問題:確率、推論、集合				テキスト該当部分の復習	
	5	模擬試験問題:速度算、順列・組み合わせ				テキスト該当部分の復習	
	6	模擬試験問題:推論、順列・組み合わせ、集合				テキスト該当部分の復習	
	7	模擬試験問題:推論、仕事算、割合、N進法				テキスト該当部分の復習	
	8	模擬試験問題:損益算、割合、集合				テキスト該当部分の復習	
	9	模擬試験問題:速度算、損益算、確率				テキスト該当部分の復習	
	10	模擬試験問題2~9 まとめ:確認テスト					
	11	模擬試験問題:分割払い、料金割引、料金精算				テキスト該当部分の復習	
	12	模擬試験問題:速度算、資料解釈				テキスト該当部分の復習	
	13	模擬試験問題:集合、推論				テキスト該当部分の復習	
	14	模擬試験問題:推論				テキスト該当部分の復習	
15	模擬試験問題:2~9、11~14 まとめ						
評価方法	(1)定期試験 (2)宿題や課題 (3)出席状況と授業中の態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○		○		80%
	宿題・レポート	◎	○		○		10%
	出席状況と授業中の態度				◎		10%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	サービス介助						
科目名(英)	Service assistance						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	玉置万理子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	エアポート科・2年						
授業概要	超高齢社会にある日本において公共機関、交通機関、商業施設、レジャー施設、観光施設などあらゆる接客・接遇の場面で全ての人々が安心して暮らしていけるサービスが必要である。この授業では、自分のできごとや自分の役割を常に意識し、自発的に様々な人に関わり、円滑なコミュニケーションと快いサポートが提供できるようになるスキルの習得を目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					超高齢社会の日本の現状を学び、高齢者体験を通して高齢者の心身の状況を説明できる。	
			○			肢体不自由者の状態を学び、サポートできるようになる。	
			○			肢体不自由者の状態に応じた車椅子介助ができるようになる。	
			○			視覚障がい者の状態と環境を学び、体験を通し介助のしかたを工夫して提供できるようになる。	
	○					聴覚障がい者の状態と環境を学び、相手に合った介助のしかたを工夫できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	超高齢社会の日本の現状				本日の授業内容を復習しておくこと	
	2	肢体不自由者 一 肢体不自由者とは				本日の授業内容を復習しておくこと	
	3	肢体不自由者 一 車椅子介助の操作演習				本日の授業内容を復習しておくこと	
	4	肢体不自由者 一 車椅子介助の操作演習				本日の授業内容を復習しておくこと	
	5	肢体不自由者 一 車椅子介助の操作演習				本日の授業内容を復習しておくこと	
	6	肢体不自由者 一 車椅子介助の実技試験				本日の授業内容を復習しておくこと	
	7	高齢者介助 一 高齢者体験				本日の授業内容を復習しておくこと	
	8	高齢者介助 一 高齢者の現状				本日の授業内容を復習しておくこと	
	9	高齢者介助 一 高齢者の心身の変化				本日の授業内容を復習しておくこと	
	10	視覚障がい者 一 視覚障がい者体験(目隠し歩行)				本日の授業内容を復習しておくこと	
	11	視覚障がい者 一 視覚障がい者介助演習				本日の授業内容を復習しておくこと	
	12	視覚障がい者 一 視覚障がい者の現状				本日の授業内容を復習しておくこと	
	13	聴覚障がい者 一 聴覚障がい者とは				本日の授業内容を復習しておくこと	
	14	聴覚障がい者 一 聴覚障がい者介助演習				本日の授業内容を復習しておくこと	
15	総まとめ・レポート課題						
評価方法	(1)授業の中で実技試験を実施する。(2)レポート、課題プリントの提出 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業中の実技試験			◎	◎		50%
	レポート提出	○	◎		◎		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	ビジネスマナー演習A						
科目名(英)	Business Ability Test A						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	榎本美和子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	エアポート科・2年						
授業概要	7月に実施されるビジネス能力検定3級の取得を目標に、テキストを基本に講義と過去問題演習を通じ、社会人としてのスキルを身に付ける。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					ビジネス用語の意味を理解し覚える。	
		○				ビジネスマナーを身に付ける。	
		○				過去問題演習を通じ、解き方のコツを覚える。	
				○		社会人として積極的に人間関係を築き、コミュニケーション能力を高める。	
テキスト・教材 参考図書	日本能率協会マネジメントセンター発行 B検 ビジネス能力検定 ジョブパス 3級 公式テキスト 2019年版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業ガイダンス・ビジネス能力検定概要・ビジネス用語・ケース問題				ビジネス用語を覚える	
	2	ビジネス用語・新聞の読み方・情報収集				ビジネス用語を覚える	
	3	ビジネス用語・統計データの読み方				ビジネス用語を覚える	
	4	ビジネス用語・ビジネス文書・8つの意識				ビジネス用語を覚える	
	5	ビジネス用語・コミュニケーションとビジネスマナーの基本				ビジネス用語を覚える	
	6	ビジネス用語・コミュニケーションとビジネスマナーの基本				ビジネス用語を覚える	
	7	過去問題 解答 ①・ビジネス用語				ビジネス用語を覚える・誤答の復習	
	8	過去問題 解答 ②・ビジネス用語				ビジネス用語を覚える・誤答の復習	
	9	過去問題 解答 ③・ビジネス用語				ビジネス用語を覚える・誤答の復習	
	10	過去問題 解答 ④・ビジネス用語				ビジネス用語を覚える・誤答の復習	
	11	過去問題 解答 ⑤・ビジネス用語				ビジネス用語を覚える・誤答の復習	
	12	本試験 答え合わせ					
	13	冠婚葬祭(ロールプレ)					
	14	社会人として大切なこと					
15	講義の総まとめ						
評価方法	(1)ビジネス用語小テストを実施 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	◎	◎				30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	フィジカルトレーニングA						
科目名(英)	Physical training A						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	三笥秀一郎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	エアポート科・2年						
授業概要	就業現場での業務上の基盤となる基礎体力の向上と維持及び社会におけるコミュニケーションツールとしてのスポーツを学び、行動力と協調性もあわせて養う。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					効果的な身体トレーニングを学ぶ。	
			○			基本的な運動(スポーツ)を行うことができる。	
				○		運動(行動)を通してコミュニケーション力やチームワークを身につけることができる。	
テキスト・教材 参考図書	関連資料プリント等						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	運動習慣の効果の学習と理解				特になし	
	2	体力の向上と維持—ジョギングとそれによる運動効果の理解				運動の準備をしておくこと	
	3	体力の向上と維持—ウォーキングとそれによる運動効果の理解				運動の準備をしておくこと	
	4	体力の向上と維持—バレーボールの基礎習得				運動の準備をしておくこと	
	5	体力の向上と維持—筋力トレーニングとそれによる運動効果の理解				運動の準備をしておくこと	
	6	体力の向上と維持—バレーボール(試合形式)				運動の準備をしておくこと	
	7	体力の向上と維持—ストレッチ運動とそれによる運動効果				運動の準備をしておくこと	
	8	体力の向上と維持—バスケットボールの基礎習得				運動の準備をしておくこと	
	9	体力の向上と維持—筋力トレーニング				運動の準備をしておくこと	
	10	体力の向上と維持—バスケットボール(試合形式)				運動の準備をしておくこと	
	11	体力の向上と維持—フットサルの基礎習得				運動の準備をしておくこと	
	12	体力の向上と維持—ランニングとそれによる運動効果の理解				運動の準備をしておくこと	
	13	体力の向上と維持—フットサル(試合形式)				運動の準備をしておくこと	
	14	体力の向上と維持—バドミントン(試合形式)				運動の準備をしておくこと	
	15	レクリエーションとしてのスポーツ理解				今後の運動計画を立てること	
評価方法	(1)出席率。(2)授業への取組み状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		50%
	取組み姿勢				◎		50%
履修上の注意	授業参加10回に満たない場合は単位認定しない。						

科目名	一般教養ⅡA						
科目名(英)	General education ⅡA						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口恵子		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	エアポート科・2年						
授業概要	就職試験問題に対応できる実力を養成する。国語・数学・英語・社会における一般常識力とSPI問題の解法を理解し、実際の採用試験に解答できる能力の修得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					漢字検定2級程度の漢字までは読み書きが出来る	
	○					計算問題を中心に正確に解答することが出来る	
	○					英検準2級程度の問題に解答することが出来る	
	○					歴史に沿って時代の流れを理解し、歴史上の出来事について概要を説明することが出来る	
○					数学の文章問題、四則演算を限られた時間の中で解答することが出来る		
テキスト・教材 参考図書	就職試験これだけ覚える適正検査スピード解法 オリジナルテキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目概要説明、第5回実力テスト					
	2	第1回: 世界史、英語、SPI: 玉手箱・分割払い			第1回: 国語(1, 2) テキストの該当部分復習しておくこと		
	3	第1回: 数学、第2回: 社会、SPI: 分割払い、料金の割引			第2回: 国語(1, 2) テキストの該当部分復習しておくこと		
	4	第2回: 英語、数学、SPI: 割引料金と精算、仕事算			テキストの該当部分復習しておくこと		
	5	第3回: 社会、SPI: 割合、損益算			第3回: 国語(1, 2) テキストの該当部分復習しておくこと		
	6	第3回: 数学、英語、SPI: 損益算、速度算			第4回: 国語(1, 2) テキストの該当部分復習しておくこと		
	7	第4回: 数学、社会、英語、SPI: 速度算、集合			第5回: 国語(1, 2) テキストの該当部分復習しておくこと		
	8	第5回: 数学、英語、社会			第6回: 国語(1) テキストの該当部分復習しておくこと		
	9	第6回: 社会、英語、SPI: 集合、推論			第7回: 国語(1, 2, 3) テキストの該当部分復習しておくこと		
	10	第7回: 社会、英語、数学、SPI: 推論			第8回: 国語(1, 2, 4) テキストの該当部分復習しておくこと		
	11	第8回: 社会、英語、数学、SPI: 推論、四則演算			第9回: 国語(1, 2) テキストの該当部分復習しておくこと		
	12	第9回: 英語、数学、社会、SPI: 四則演算、割合			第10回: 国語(1) テキストの該当部分復習しておくこと		
	13	第10回: 数学、社会、英語			テキストの該当部分復習しておくこと		
	14	第10回: 英語、SPI: 売買分割、推理、順列・組み合わせ			テキストの該当部分復習しておくこと		
15	まとめ: 前期試験範囲振り返りと対策			テキストの該当部分復習しておくこと			
評価方法	(1) 定期試験 (2) 宿題や課題 (3) 授業中の態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○		○		80%
	小テスト	◎	○		○		10%
	宿題・レポート	○	○		◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名 Subject Name	English Conversation						
科目名(英) Same as Above	English Conversation						
単位数 Credits	2単位	時間数 Hours	30時間	担当者 Instructor	Myles Dervin		
実施年度 Year	2019年度	実施時期 Semester	前期	実務家教員 担当科目 Instructor with Career in Subject Area	○		
対象学科・学年 Class	Airport 2						
授業概要 Subject Description	1. Raise students' English proficiency 2. Give students more confidence in using English 3. Workplace related English skills						
授業形式 Class Format	講義: Lecture	△	演習: Practice	○	実習:	実技: ※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標) Specific Targets in Focus	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標 Targets	
	○					Raise students' English proficiency	
	○					Give students more confidence in using English	
	○					Workplace related English skills	
テキスト・教材 参考図書 Textbooks and References	Speakout Elementary Book1						
授業計画 Class Schedules and Contents	回数	授業項目・内容 Topics and Contents			授業外学修指示 Preparation and Review		
	1	Get to know your teacher			none		
	2	1.1 Nice to meet you			Preview lesson materials and review previous lesson		
	3	1.2 Travel Light			Preview lesson materials and review previous lesson		
	4	1.3 Can I Have a Coffee?			Preview lesson materials and review previous lesson		
	5	Teacher's Lseeon or 1.4 Fawlty Towers (needs TV/DVD)			Preview lesson materials and review previous lesson		
	6	1.5 Lookback /teacher's lesson			Preview lesson materials and review previous lesson		
	7	2.1 Join Us			Preview lesson materials and review previous lesson		
	8	2.2 High Flyers			Preview lesson materials and review previous lesson		
	9	2.3 What Time Does It Start?			Preview lesson materials and review previous lesson		
	10	Teacher's Lesson or 2.4 Chalet Girl (needs TV / DVD)			Preview lesson materials and review previous lesson		
	11	2.5 Lookback / Teacher's lesson			Preview lesson materials and review previous lesson		
	12	3.1 Just Good Friends			Preview lesson materials and review previous lesson		
	13	3.2 Big Happy Families			Preview lesson materials and review previous lesson		
	14	Review and Practice for Speaking Test			Preview lesson materials and review previous lesson		
	15	Speaking Test			Review previous lesson material		
評価方法 Assessment Method	Students evaluation: (1) Test - 50% (2) Class participation - 25% (3) Attendance - 25 % The scoring scheme is: S (90 and above); A (80~89); B (70~79); C (60~69); D (59 and below)						
		言語情報 Language Info.	知的技能 Intellectual Skills	運動技能 Physical Skills	態度・意欲 Attitude/Ea gerness	その他 Other	評価割合 Percentage of Assessment
	定期試験 Semester End Exam	○	○		○		50%
	小テスト In-class Tasks	○	○		○		50%
	宿題・レポート Assignment/Report						
	発表・作品 Presentation/Works						
履修上の注意 Remarks	Students will not receive a grade if they miss more than 5 classes.						



科目名	海外地理						
科目名(英)	Overseas Geography						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	齊藤道幸		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	エアポート科・2年						
授業概要	交通運輸観光関係企業にて働く者が常に地球儀を頭に想定し、地理を学ぶ授業。 福岡空港並びに国内主要空港から航空路線がある都市並びにその国の政治体制、国勢、世界遺産等、主な観光地を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				福岡空港より国際線路線のある都市・国の国勢を学び説明できる。	
	○	○				関空より国際線路線のある都市・国の国勢を学び説明できる。	
	○	○				中部国際空港より国際線路線のある都市・国の国勢を学び説明できる	
	○	○				成田空港より国際線路線のある都市・国の国勢を学び説明できる。	
	○	○				羽田空港より国際線路線のある都市・国の国勢を学び説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	講師作成レジメ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業の進め方。地理で何を学ぶのか。福岡空港の国際線。			1週間に起こった興味あるニュース、出来事を準備する。		
	2	福岡空港国際線の国々(都市)の地理①			1週間に起こった興味あるニュース、出来事を準備する。		
	3	福岡空港国際線の国々(都市)の地理②			1週間に起こった興味あるニュース、出来事を準備する。		
	4	福岡空港国際線の国々(都市)の地理③			1週間に起こった興味あるニュース、出来事を準備する。		
	5	関空国際線の国々(都市)の地理①			1週間に起こった興味あるニュース、出来事を準備する。		
	6	関空国際線の国々(都市)の地理②			1週間に起こった興味あるニュース、出来事を準備する。		
	7	中部国際線の国々(都市)の地理①			1週間に起こった興味あるニュース、出来事を準備する。		
	8	中部国際線の国々(都市)の地理②			1週間に起こった興味あるニュース、出来事を準備する。		
	9	小テスト(確認テスト)①(1回～8回の範囲)			1週間に起こった興味あるニュース、出来事を準備する。		
	10	成田空港国際線の国々(都市)の地理①			1週間に起こった興味あるニュース、出来事を準備する。		
	11	成田空港国際線の国々(都市)の地理②			1週間に起こった興味あるニュース、出来事を準備する。		
	12	成田空港国際線の国々(都市)の地理③			1週間に起こった興味あるニュース、出来事を準備する。		
	13	羽田空港国際線の国々(都市)の地理①			1週間に起こった興味あるニュース、出来事を準備する。		
	14	羽田空港国際線の国々(都市)の地理②			1週間に起こった興味あるニュース、出来事を準備する。		
15	小テスト(確認テスト)②全体						
評価方法	(1)小テスト(確認テスト)を2回実施する。(2)授業開始の際、最近興味をもったニュース、出来事を各自発表。 (3)定期試験を実施する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	確認テスト(小テスト)	◎	○		◎		30%
	授業中の発表	○			◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	空港実務ⅡA						
科目名(英)	Airport Practical business ⅡA						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	河野浩一		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	エアポート科・2年						
授業概要	空港従事者としての基礎知識を深め応用力を習得する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					航空用語を理解し、業界人としての会話ができるようになる。	
	○	○				ITV・CPMを見て、到着の情報を入手でき、器材などの準備ができる。	
	○	○				LIを見て、出発情報を理解し、必要な搭載方法を判断できるようになる。	
	○	○		○		到着・出発での整備業務の実技ができるようになる。	
○					到着から出発の各業務の作業工程を理解する。		
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グランドハンドリングの概要 空港実務Ⅰの振り返り					
	2	グランドハンドリングの概要					
	3	グランドハンドリングの基礎学 到着作業・情報の入手・準備					
	4	グランドハンドリングの基礎学 到着作業・情報の入手・準備					
	5	グランドハンドリングの基礎学 出発作業					
	6	グランドハンドリングの基礎学 出発作業					
	7	手荷物の取り扱いについて TAGの種類とBHS					
	8	理解度テストとFollow Up					
	9	旅客ハンドリング 車いすケア・ストレッチャー					
	10	客室サービス業務(Lavatory Service・Water Service)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	ランプ・イン/アウト(誘導作業) Marshallingの実技				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	ランプ・イン/アウト(誘導作業)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	整備補助業務 GPU作業・インターホン作業				インターホンの手順を覚える。	
	14	整備補助業務 GPU作業・インターホン作業					
15	理解度テストとFollow Up						
評価方法	(1)授業の中で理解度テストを2回実施する。(2)実技及び口頭質問を数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				65%
	理解度テスト	◎	◎				15%
	実技及び口頭質問	○	○	◎			20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	航空貨物演習						
科目名(英)	Air Cargo Handling BASIC						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	折居 貴郎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	航空地上支援サービス会社において グランドハンドリングとして勤務		
対象学科・学年	エアポート科・2年						
授業概要	航空貨物の重要性を理解し、航空貨物業界の現場に対応できる専門基礎知識を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					業務現場に必要な航空専門用語の意味や内容を理解できる。	
	○					貨物ハンドリングの概要を理解できる。	
	○					航空輸送における安全の意識や重要性を理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	航空機のグランドハンドリング、プリント資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	航空貨物の特徴について(国内貨物と国際貨物)					
	2	航空種類及び専門用語について					
	3	航空種類及び専門用語について				※ テストあり(2レター、3レター)	
	4	ユニットロードデバイス(ULD)の種類と機能について					
	5	貨物上屋業務について					
	6	航空貨物販売について					
	7	航空運賃について					
	8	運送状の役割について				※ テストあり(運送状の作成)	
	9	航空危険物について(基礎編)					
	10	航空危険物について(航空会社編)				※ テストあり(NOTOCの作成)	
	11	航空郵便について					
	12	ウェイトアンドバランス(W/B)・航空機搭載許容重量(ACL)について					
	13	イレギュラーについて					
	14	空港業務作業/安全について					
15	確認テスト						
評価方法	(1)授業の中で小テストを3回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト		◎		○		50%
	定期試験		◎		○		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	航空品質管理 II						
科目名(英)	Aviation quality control II						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	河野浩一		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	エアポート科・2年						
授業概要	空港従事者として、安全運航に関する意識、感性、手法を学びイレギュラー回避能力を向上させる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					安全管理・品質管理を理解し、安全に関しての重要性を説明することができる。	
	○					ヒューマンファクターの考え方を理解し、ヒューマンエラーの要因を説明できるようになる。	
	○	○				作業での危険箇所(ハザードエリア)を予測することができる。(KYT)	
	○		○			指差呼称を使った確認ができる。	
テキスト・教材 参考図書	航空機のグランドハンドリング						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	安全管理・品質管理とは。ヒューマンファクター					
	2	ヒューマンファクターへの取り組み(Dirty Dozen)					
	3	ヒューマンファクターへの取り組み(Dirty Dozen)					
	4	ヒューマンファクターへの取り組み(Dirty Dozen)					
	5	ヒューマンファクターとリソースマネジメント					
	6	コミュニケーションスキル					
	7	指差呼称の目指すもの・実践と手法					
	8	尊い命をお預かりする仕事「航空機事故事例」					
	9	KYT(危険予知トレーニング) ハザードエリア					
	10	職場の安全活動 ヒヤリハットメモ・安全品質情報の作成					
	11	空港業務におけるケーススタディー					
	12	空港業務におけるケーススタディー					
	13	空港業務におけるケーススタディー					
	14	空港内の安全管理規定					
15	授業全体の振り返り						
評価方法	(1)授業の中で小テストを3回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 (4)授業内演習の取組み姿勢 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					60%
	小テスト	◎					10%
	演習	○	○		◎		20%
	レポート	○					10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	実用英語ⅡA				
科目名(英)	Practical EnglishⅡA				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	秋本佐代子
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	エアポート科・2年				
授業概要	TOEIC350～400に必要な英語の基礎を学ぶ。基本的な文法の知識の確認を行うと共に、比較的簡単な長文の読解を目指す。音読練習も加えたリスニング練習を反復的に行うことで、資格試験のみならず、日常会話に必要な力も伸ばしていく。				
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○				
	○				
	○				
	○				
	○				
テキスト・教材 参考図書	新TOEICメガ模試、TOEIC TEST新形式精選模試リーディング・リスニング				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	授業の説明・単語解説			単語テストに向け該当箇所を覚える
	2	リスニング(Part 1 人物動作)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	3	リーディング(Part 5 時制)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	4	リスニング(Part 1 物の位置の表現)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	5	リーディング(Part 5 品詞)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	6	リスニング(Part 2 疑問文)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	7	リーディング(Part 5 代名詞)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	8	リスニング(Part 2 様々な答え方)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	9	リーディング(Part 5 接続詞)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	10	リスニング(Part 3 ビジネス会話)			復習テストに向け勉強
	11	リーディング(Part 5 イディオム)			復習テストに向け勉強
	12	復習テスト			単語テストに向け該当箇所を覚える
	13	リスニング(Part 3 ビジネス会話)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	14	リーディング(Part 7 広告・入力フォーム)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	15	リスニング(Part 3 図表問題)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	16	リーディング(Part 7 チャット)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	17	リスニング(Part 4 アナウンス)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	18	リーディング(Part 7 ビジネスレター)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	19	リスニング(Part 4 図表問題)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	20	リーディング(Part 7 Double/Triple/パッセージ)			復習テストに向け勉強
	21	復習テスト			間違った問題をやり直す
	22	TOEIC模試① Part 1 / 2 / 7 (Single)			間違った問題をやり直す
	23	TOEIC模試① Part 3 / 7 (Double)			間違った問題をやり直す
	24	TOEIC模試① Part 4 / 5 / 6			間違った問題をやり直す
	25	TOEIC模試② Part 1 / 2 / 7 (Single)			間違った問題をやり直す
26	TOEIC模試② Part 3 / 7 (Double)			間違った問題をやり直す	

	27	TOEIC模試② Part 4/ 5 / 6	間違った問題をやり直す				
	28	TOEIC模試③ リーディング100問	間違った問題をやり直す				
	29	TOEIC模試③ リスニング100問	正試験に向けた復習				
	30	前期のまとめ	正試験に向けた復習				
評価方法	(1)授業の中で復習テストを2回実施する。(2)単語テストを9回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	単語テスト	◎					10%
	復習テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会教養ⅡA						
科目名(英)	Social StudyⅡA						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	三笥 秀一郎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	エアポート科・2年						
授業概要	就職活動の基本を理解し、就職活動準備や就職試験対策(履歴書作成・エントリーシート作成、面接対策など)を行い、希望業界・企業、希望職種への内定を目指す						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		就職活動準備(企業研究、履歴書・エントリーシート作成、過去受験内容の整理)	
				○		就職試験対策(筆記試験、面接練習等)	
テキスト・教材 参考図書	資料プリント等						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職情報伝達目標設定				自分の就職の方向性を考えておくこと	
	2	企業研究の仕方の説明				企業名を調べておくこと	
	3	就職活動指導－就職斡旋規定の確認と理解				就職ノートを準備しておくこと	
	4	就職活動指導－求人票の見方				ノートの記入内容を復習しておくこと	
	5	就職活動指導－履歴書、エントリーシートの書き方指導				ノートの記入内容を復習しておくこと	
	6	就職活動指導－面接の種類について				ノートの記入内容を復習しておくこと	
	7	就職試験対策－履歴書、エントリーシート作成、筆記試験・面接対策				就職受験準備をしておくこと	
	8	就職試験対策－履歴書、エントリーシート作成、筆記試験・面接対策				就職受験準備をしておくこと	
	9	就職試験対策－履歴書、エントリーシート作成、筆記試験・面接対策				就職受験準備をしておくこと	
	10	就職試験対策－履歴書、エントリーシート作成、筆記試験・面接対策				就職受験準備をしておくこと	
	11	就職試験対策－履歴書、エントリーシート作成、筆記試験・面接対策				就職受験準備をしておくこと	
	12	就職試験対策－履歴書、エントリーシート作成、筆記試験・面接対策				就職受験準備をしておくこと	
	13	就職試験対策－履歴書、エントリーシート作成、筆記試験・面接対策				就職受験準備をしておくこと	
	14	就職試験対策－履歴書、エントリーシート作成、筆記試験・面接対策				就職受験準備をしておくこと	
15	前期の振り返り				ノートの記入内容を復習しておくこと		
評価方法	(1)出席率。(2)提出物の期限を遵守する。(3)就職活動への取組み状況。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				○		80%
	提出物状況				○		10%
	就職活動の取組み				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を与えない。						